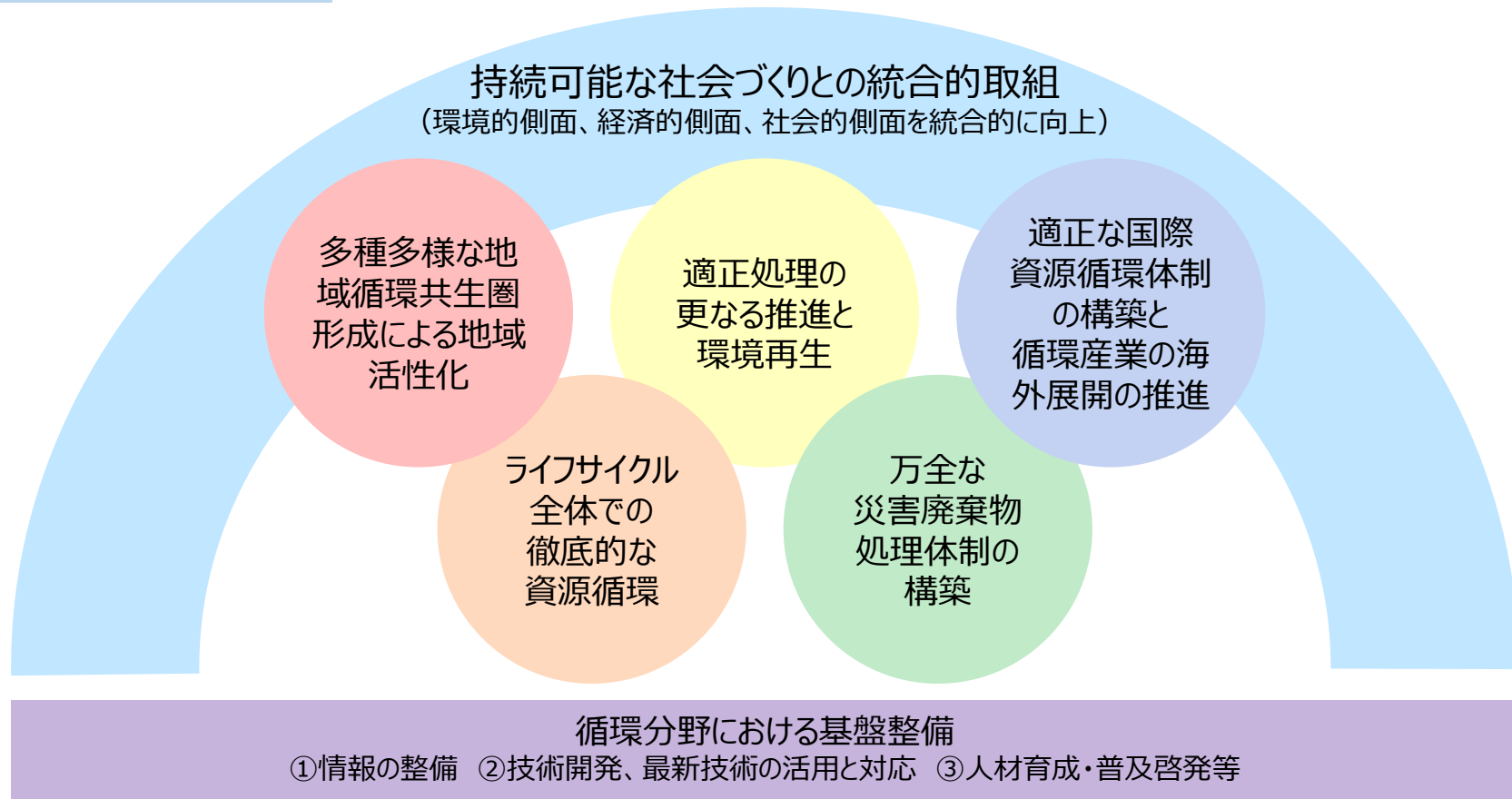


循環型社会形成推進基本計画（循環計画）とは

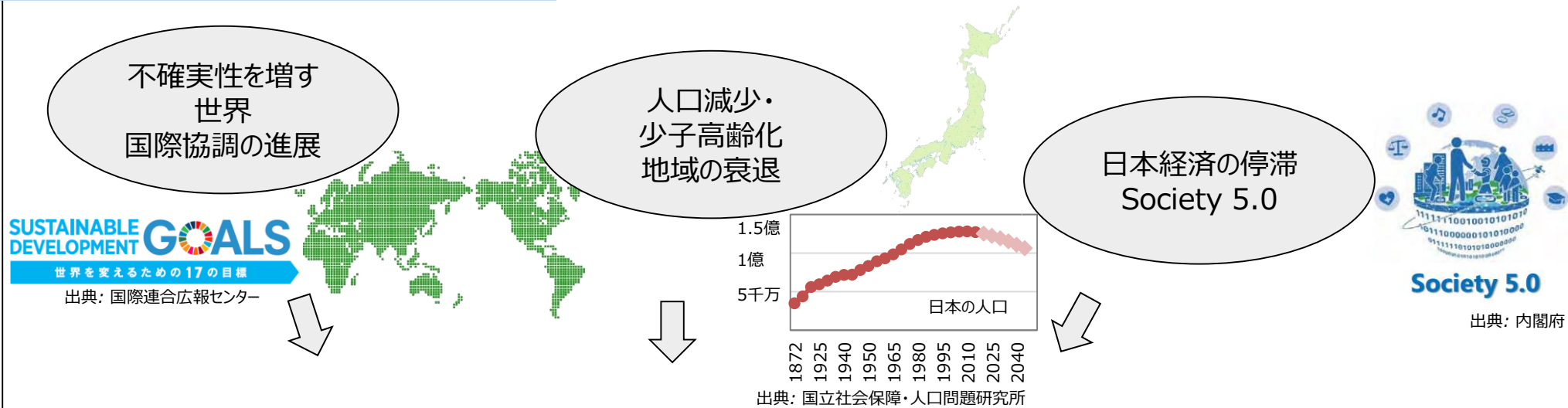
- 循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する施策の基本的な方針、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策等を定めるもの
- 平成30年（2018年）6月19日に第四次循環計画を閣議決定

第四次循環計画の構成



第四次循環型社会形成推進基本計画の概要

今後懸念される課題と近年の対応



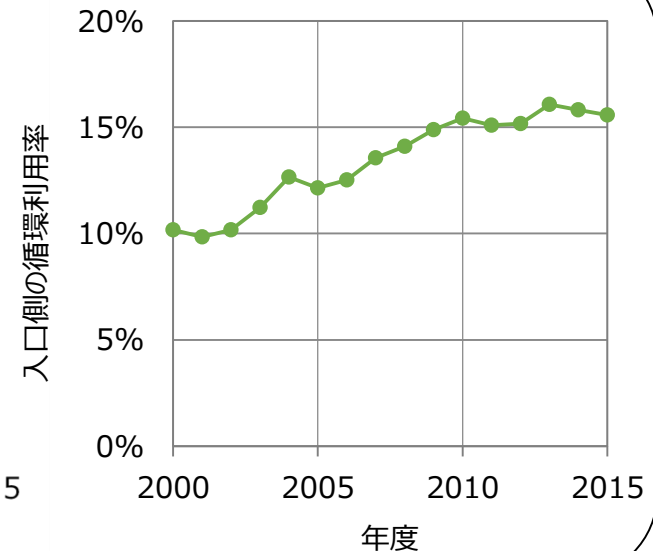
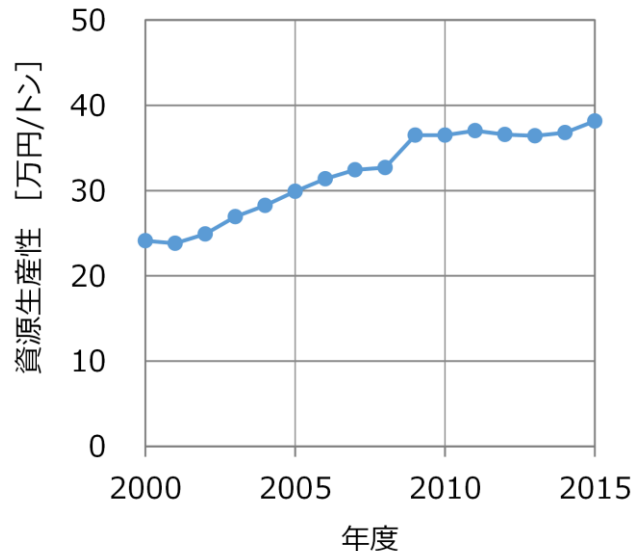
循環型社会

近年の状況

- ・2000年から大きく進展したものの 資源生産性等は近年横ばい

循環分野の課題

- ・原発事故により放出された放射性物質による 環境汚染からの再生と復興
- ・大規模災害の頻発と対策の遅れ
- ・国民の意識の変化 (ものの豊かさ→心の豊かさ)
- ・資源循環及び適正処理の担い手の確保

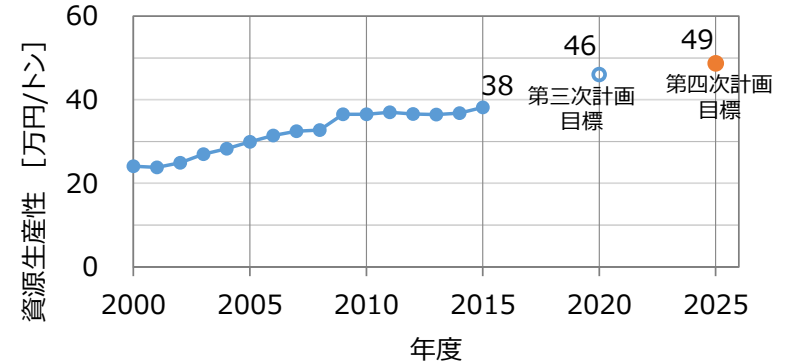


循環型社会の全体像に関する指標、目標

資源生産性 = GDP/天然資源等投入量

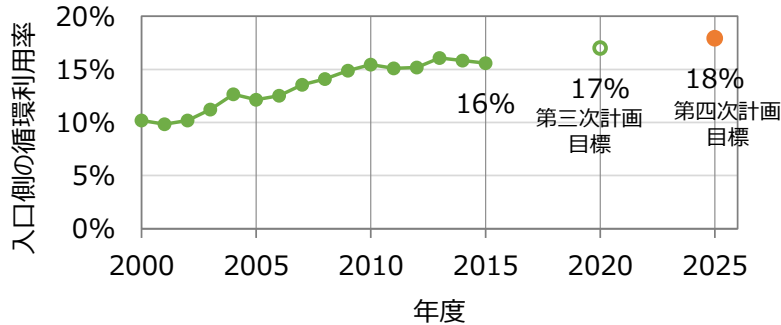
2025年度目標：約49万円/トン（2000年度の約2倍）

- 各産業がより少ない天然資源で生産活動を向上させているかや人々の生活がいかにより少ない資源でどれだけ大きな豊かさを生み出しているかを総合的に表す指標
- 国の計画で採用したのは日本が最初



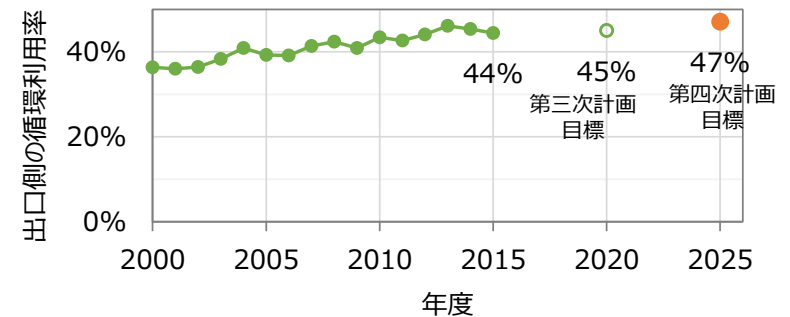
入口側の循環利用率 = 循環利用量 / (天然資源等投入量 + 循環利用量)

2025年度目標：約18%（2000年度の約1.8倍）



出口側の循環利用率 = 循環利用量 / 廃棄物等発生量

2025年度目標：約47%（2000年度の約1.3倍）

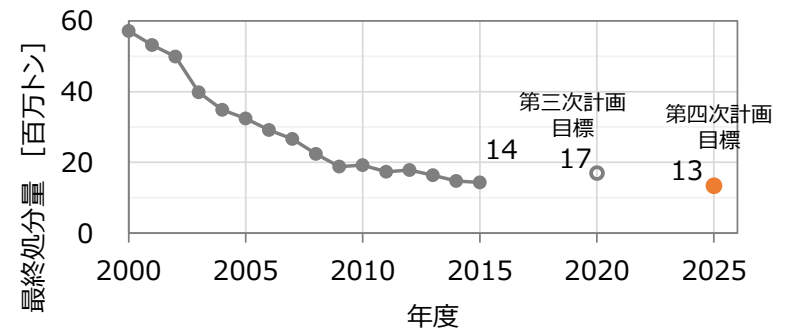


最終処分量

2025年度目標：約13百万トン（2000年度から約77%減）

[一般廃棄物] 2025年度に約3百万トン（2000年度から約70%減）

[産業廃棄物] 2025年度に約10百万トン（2000年度から約77%減）



持続可能な社会づくりとの統合的取組

将来像

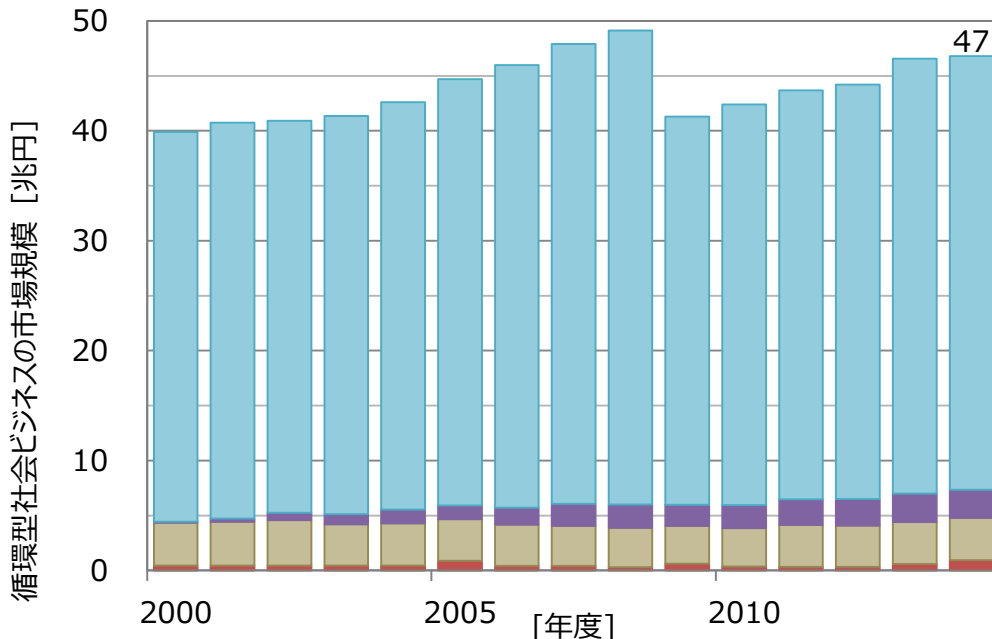
- ✓ 誰もが、持続可能な形で資源を利用でき、環境への負荷が地球の環境容量内に抑制され、健康で安全な生活と豊かな生態系が確保された世界
- ✓ 環境的側面、経済的側面、社会的側面を統合的に向上

取組の進展に関する指標、目標

循環型社会ビジネスの市場規模

2025年度目標：2000年度の約2倍

- 持続可能な農林水産業
- クリーンエネルギー利用
- 廃棄物処理、リサイクル
- 長寿命化
- 資源、機器の有効利用



出典：環境省「第三次循環型社会形成推進基本計画の進捗状況の第3回点検結果について」より作成

家庭系・事業系食品ロス量

2030年度目標：
家庭系食品ロス量は2000年度の半減

[年度]	2000	2012	2013	2014	2015
家庭系食品ロス量 [万t]	433	312	302	282	289

注：暫定値であり、今後精査する予定

出典：環境省

事業系食品ロス量
今後、食品リサイクル法の基本方針で目標を設定

持続可能な社会づくりとの統合的取組

国の取組

- 地域循環共生圏の形成に向けた施策の推進
- シェアリング等の2Rビジネスの促進、評価
- 家庭系食品ロス半減に向けた国民運動
- 高齢化社会に対応した廃棄物処理体制
- 未利用間伐材等のエネルギー源としての活用
- 廃棄物エネルギーの徹底活用
- マイクロプラスチックを含む海洋ごみ対策
- 災害廃棄物処理事業の円滑化・効率化の推進
- 廃棄物・リサイクル分野のインフラの国際展開



出典: 国際連合広報センター

多種多様な地域循環共生圏形成による地域活性化

将来像

- ✓ 循環資源、再生可能資源、ストック資源を活用し、地域の資源生産性の向上、生物多様性の確保、低炭素化、地域の活性化等
- ✓ 災害に強い地域でコンパクトで強靱なまちづくり

取組の進展に関する指標、目標

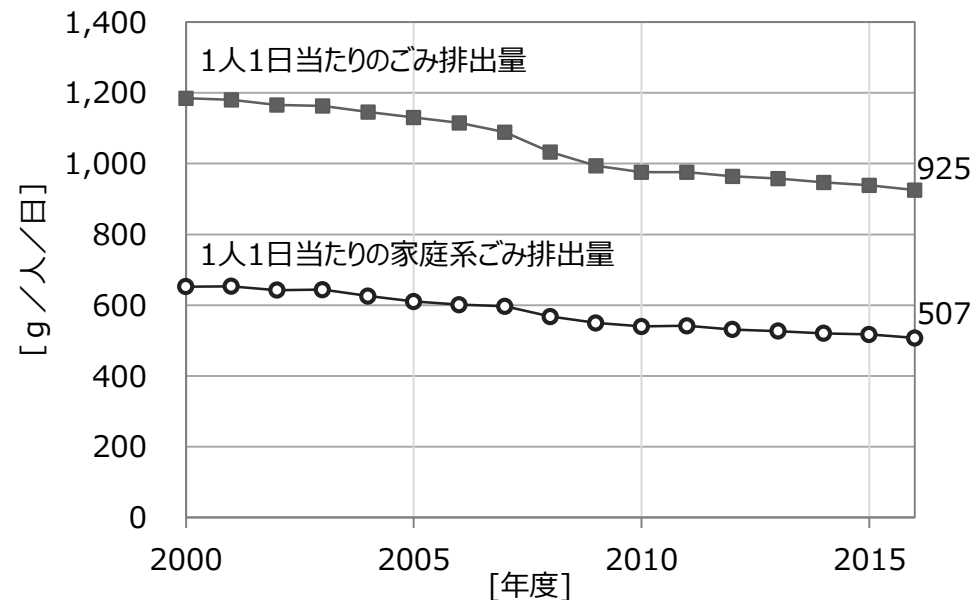
1人1日当たりのごみ排出量

1人1日当たりの家庭系ごみ排出量

2025年度目標：

[1人1日当たりのごみ排出量] 約850 g/人/日

[1人1日当たりの家庭系ごみ排出量] 約440 g/人/日



出典：環境省「日本の廃棄物処理」より作成

ライフサイクル全体での徹底的な資源循環

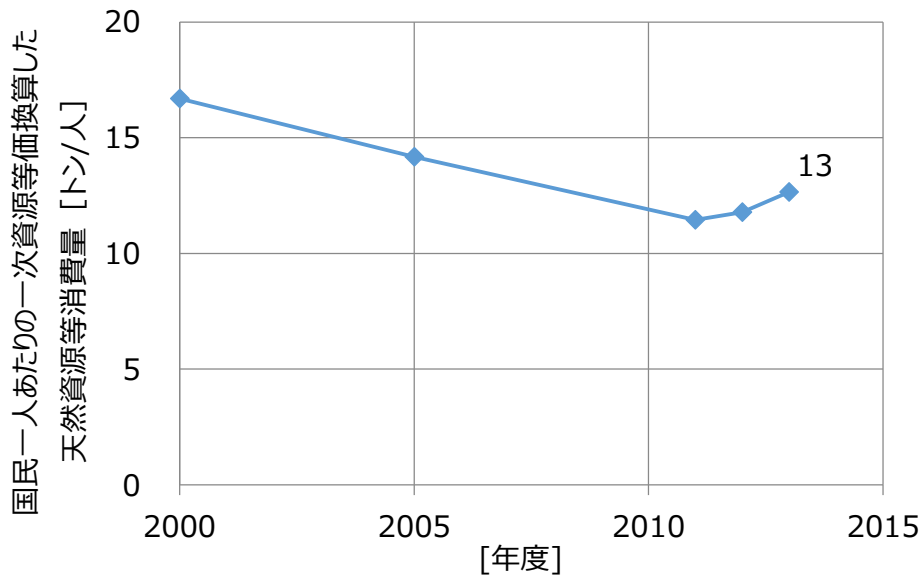
将来像

- ✓ 第四次産業革命により、「必要なモノ・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供する」ことで、ライフサイクル[※]全体で徹底的な資源循環を行う

※経済社会の物質フローについて、資源確保、生産、流通、使用、再使用、再資源化、廃棄等の全ての段階を指す

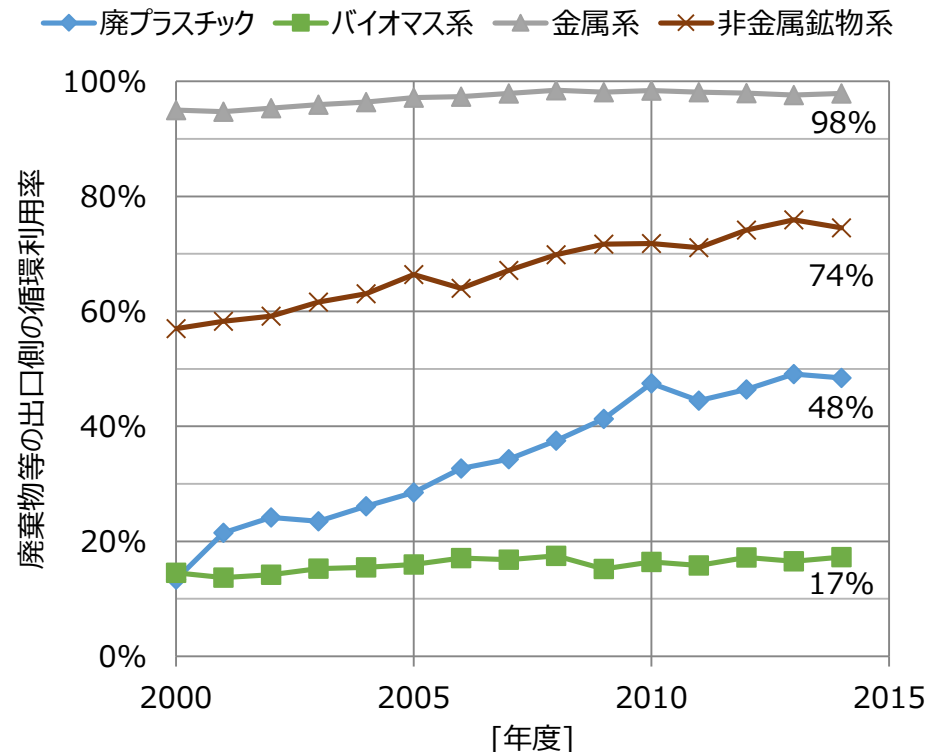
取組の進展に関する指標、目標

国民 1 人当たりの一次資源等価換算した天然資源等消費量



出典：環境省「第三次循環型社会形成推進基本計画の進捗状況の第3回点検結果について」より作成

廃棄物等種類別の出口側の循環利用率



出典：環境省「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書（廃棄物等循環利用量実態調査編）」より作成

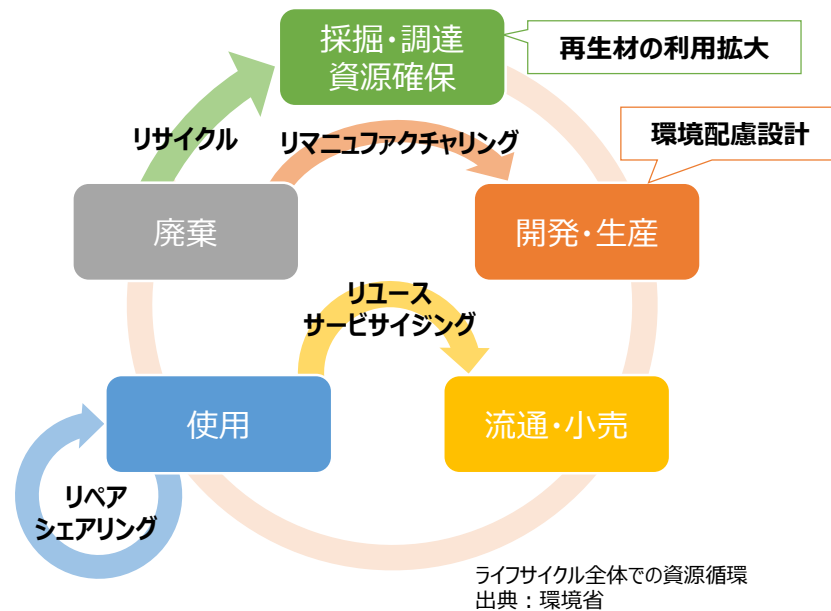
ライフサイクル全体での徹底的な資源循環

国の取組

○開発設計段階での省資源化等の普及促進

- 再生材の利用拡大
- 3Dモデリング等
- 環境配慮設計

○シェアリング等の2Rビジネスの促進、評価



○素材別の取組

【プラスチック】

- 「プラスチック資源循環戦略」の策定、施策の推進

【バイオマス】

- 食品ロス削減の国民運動
- 食品廃棄物等の不適正処理対策と食品リサイクルの取組



出典：環境省



出典：環境省「すぐたべくん」

【金属】

- 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」の機運を生かし、小型家電の回収・再資源化を促進

【土石・建設材料】

- 建築物の強靱化、長寿命化による建設廃棄物の発生抑制

【その他の製品等】

- 必要に応じ、太陽光発電設備の義務的リサイクル制度の活用を検討
- おむつリサイクルの促進



メダルプロジェクト関連イベント
出典：環境省

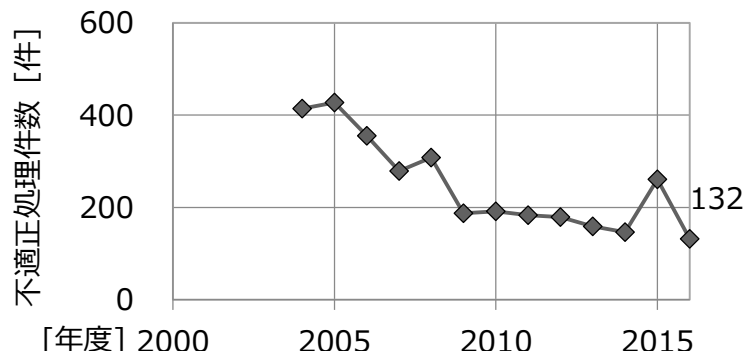
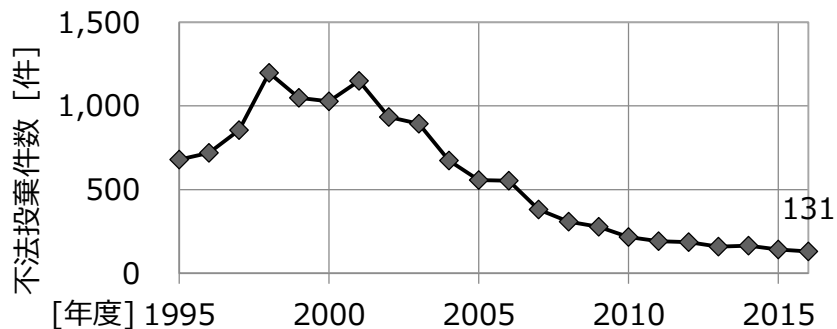
適正処理の更なる推進と環境再生

将来像

- ✓ 廃棄物の適正処理のシステム、体制、技術が適切に整備された社会
- ✓ 海洋ごみ問題が解決に向かい、不法投棄等の支障除去が着実に進められ、空き家等の適正な解体・撤去等により地域環境の再生が図られる社会
- ✓ 東日本大震災の被災地の環境を再生し、未来志向の復興創生

取組の進展に関する指標、目標

不法投棄、不適正処理の発生件数



注1：都道府県及び政令市が把握した産業廃棄物の不法投棄／不適正処理のうち、1件当たりの投棄量／不適正処理量が10t以上の事業（ただし特別管理廃棄物を含む事業はすべて）が集計対象

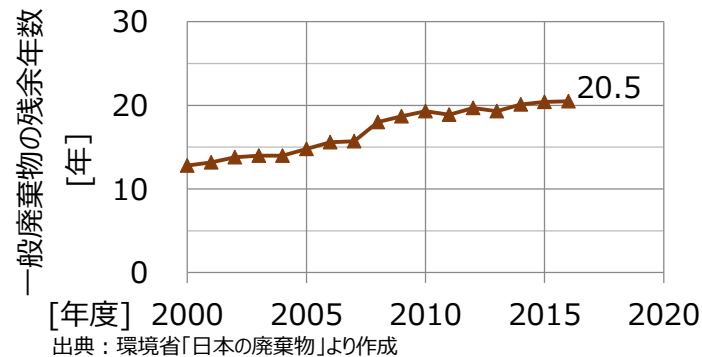
注2：硫酸ピッチは本調査の対象から除外し、別途とりまとめ。

注3：フェロシルト事業は本調査の対象から除外。

出典：環境省「産業廃棄物の不法投棄等の状況」より作成

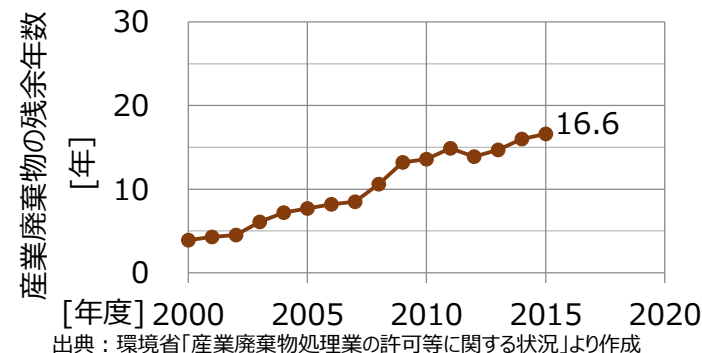
最終処分場の残余年数

目標：[一廃] 2022年度に20年分を維持



出典：環境省「日本の廃棄物」より作成

目標：[産廃] 2020年度に10年分程度



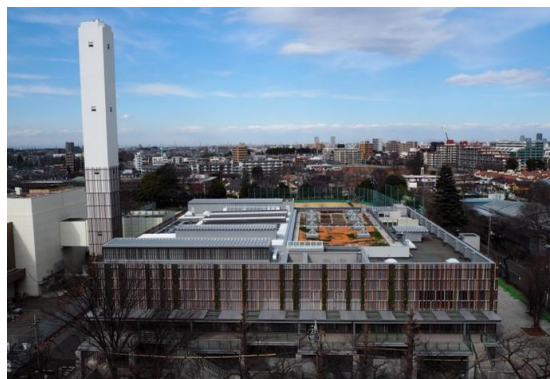
出典：環境省「産業廃棄物処理業の許可等に関する状況」より作成

適正処理の更なる推進と環境再生

国の取組

【適正処理】

- 安定的・効率的な処理体制の整備
- 廃棄物処理システムの地球温暖化対策・災害対策の強化
- 地域での新たな価値創出に資する廃棄物処理施設の整備
- 高齢化社会に対応した廃棄物処理体制
- 電子マニフェスト義務付け拡大
- 循環分野における環境産業全体の健全化、振興



地域の防災拠点、エネルギーセンターとなる廃棄物処理施設
出典：環境省

【環境再生】

- マイクロプラスチックを含む海洋ごみ対策
- 空き家対策、空き店舗対策



重機やボランティアによる海洋ごみの回収処理活動
出典：環境省

【東日本大震災からの環境再生】

- 放射性物質により汚染された廃棄物の適正処理、除去土壌等の減容・再生利用などの着実な実施
- 被災地の未来志向の復興創生



檜葉町の仮置場内破砕選別設備
出典：環境省



檜葉町の仮設焼却施設
出典：環境省

万全な災害廃棄物処理体制の構築

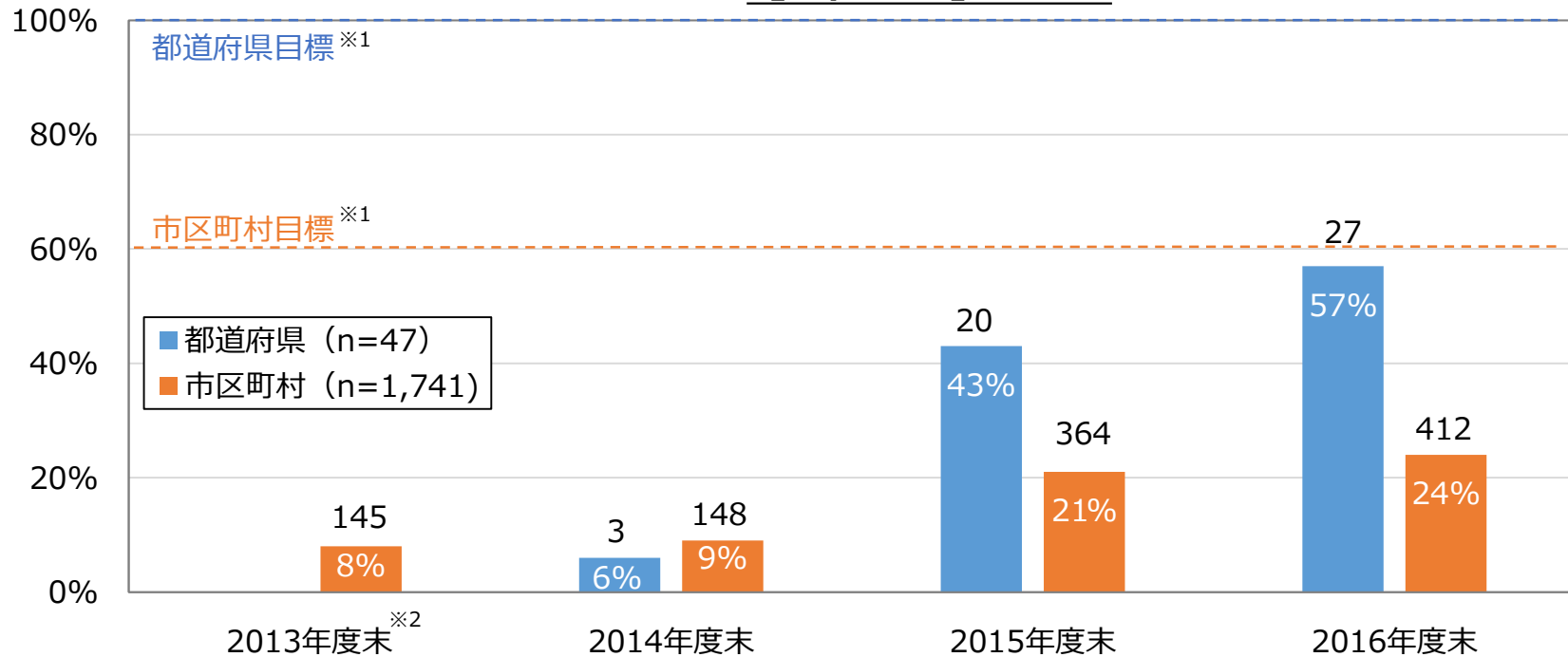
将来像

- ✓ 自治体レベル、地域ブロックレベル、全国レベルで重層的に、平時から廃棄物処理システムの強靭化を図り、災害時に災害廃棄物等を適正かつ迅速に処理できる社会

取組の進展に関する指標、目標

都道府県、市区町村の災害廃棄物処理計画策定率

2025年度目標：〔都道府県〕 100%
〔市区町村〕 60%



※1 第四次循環型社会形成推進基本計画（平成30年6月閣議決定） ※2 2013年度以前は市町村の策定率のみ調査を実施
出典：環境省

万全な災害廃棄物処理体制の構築

国の取組

【自治体レベル】

- 災害廃棄物処理計画の策定
 - ・ 事業継続等の観点も含めた計画の点検・見直しのモデル事業等の支援
- 国民に対して自治体等が協力を得られるよう情報発信、コミュニケーションの場の設置を支援



一次仮置場で分別指導する環境省現地支援チーム
出典：環境省

【地域レベル】

- 地域ブロック協議会の運営、行動計画の見直し
- 共同訓練、人材交流の場、セミナーの開催等

【全国レベル】

- 災害廃棄物処理実績を蓄積、情報プラットフォームを整備・運営
- 災害廃棄物処理の円滑化・高効率化
 - ・ IT、人工衛星等の最新技術の活用
- D.Waste-Netの体制強化、平時の取組の充実
- 災害時に拠点となる廃棄物処理施設の整備



自治体管理の仮置場に分別されて適正に管理されている災害廃棄物
出典：環境省

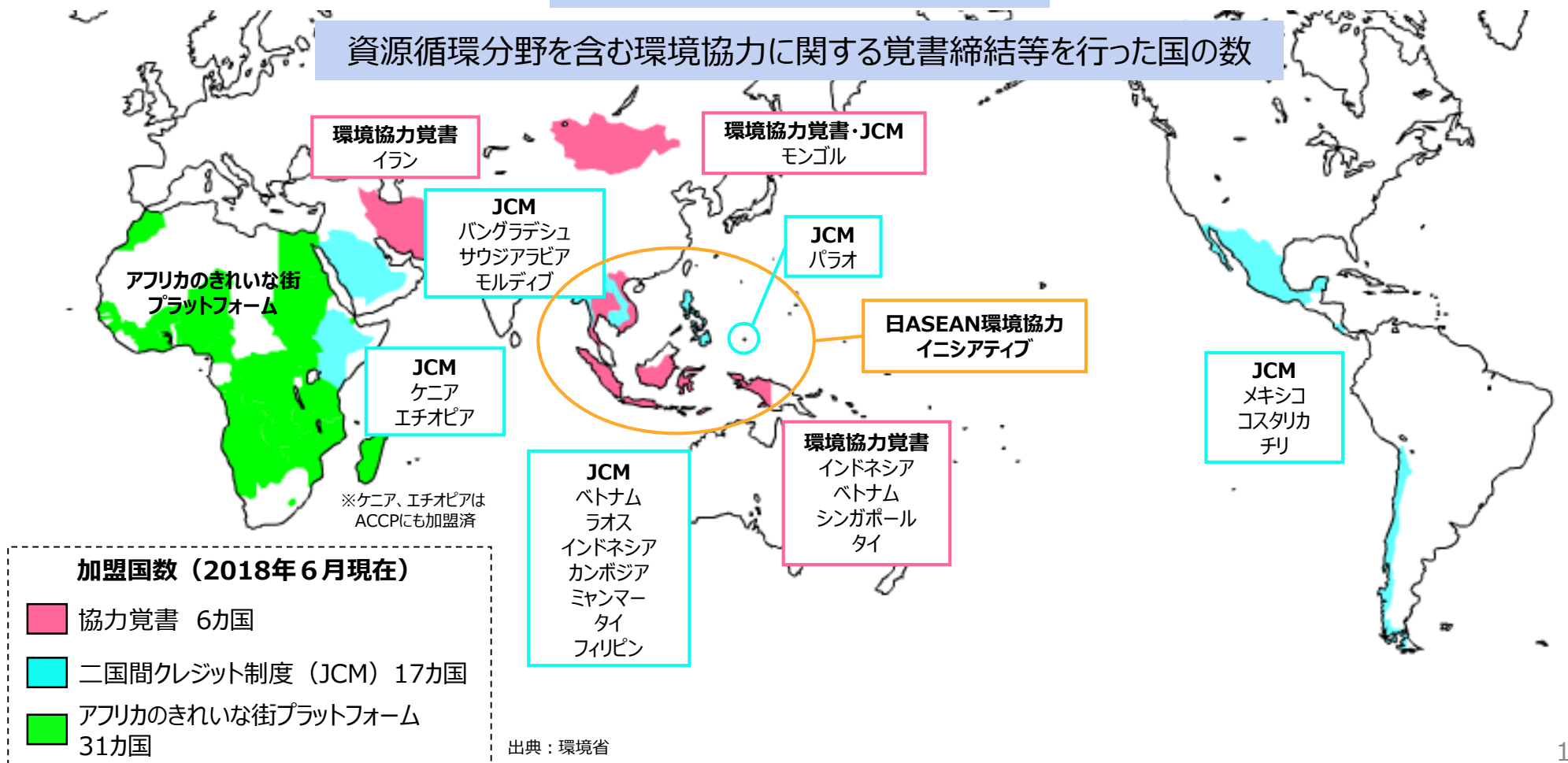
適正な国際資源循環体制の構築と循環産業の海外展開の推進

将来像

- ✓ 適正な国際資源循環体制の構築、我が国の循環産業の国際展開により、資源効率性が高く、健康で安全な生活と豊かな生態系が確保された世界

取組の進展に関する指標、目標

資源循環分野を含む環境協力に関する覚書締結等を行った国の数



国の取組

【国際資源循環体制の構築】

- 2016年「富山物質循環フレームワーク」等に基づき、資源効率性の向上や3Rの推進
- 「アフリカのきれいな街プラットフォーム」の活動に協力、知見の共有
- 国内外で発生した二次資源について日本の環境先進技術を活かしつつリサイクルを適正に推進（バーゼル法の改正等）



シッパックされた雑品スクラップ
出典：環境省

【循環産業の海外展開】

- 「もったいない精神」を海外に紹介、モノを大切にできる意識の向上
- 我が国の質の高い環境インフラについて、制度・システム・技術等をパッケージとして海外展開
- 日本の災害廃棄物対策ノウハウの提供、JICA等と連携した被災国支援スキーム



国際展開によりヤンゴンで稼働中の廃棄物処理施設
出典：環境省

循環分野における基盤整備

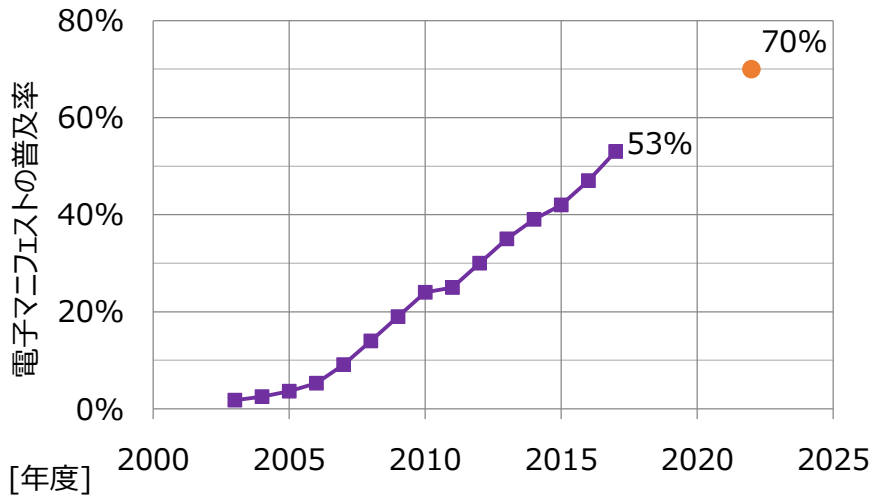
将来像

- ✓ 情報基盤が整備・更新され、必要な技術の開発が継続的に行われ、人材が育成され、多様な主体が高い意識を持って、行動する社会

取組の進展に関する指標、目標

電子マニフェストの普及率

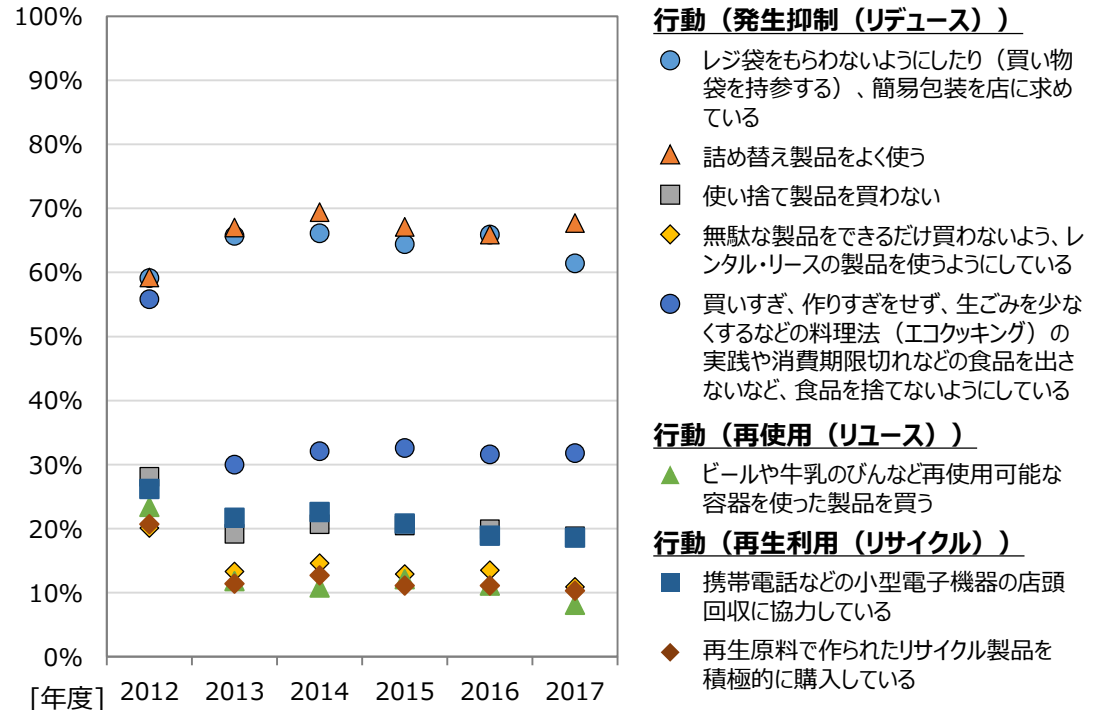
2022年度目標：70%



出典：(公財) 日本産業廃棄物処理振興センター「電子マニフェスト登録件数・電子化率」より作成

具体的な3R行動の実施率

2025年度目標：2012年度の世論調査から約20%上昇



注：2012年度世論調査の値は、設問・選択肢の文章が完全に一致はしていない項目もあるが、類似・同一内容の設問で比較
出典：環境省「循環型社会形成に向けた意識・行動調査」より作成

循環分野における基盤整備

国の取組

【情報整備】

- 各主体の取組の成果を評価する手法、分かりやすく示す指標
- 各種手続等の廃棄物に関する情報の電子化、電子マニフェストを含む情報の活用



電子マニフェストシステムの機能強化・利便性の向上
出典: 環境省

【技術開発等】

- 廃棄物収集の効率化や高度選別技術の普及促進
 - ・IoTとデータ分析技術の組み合わせ、ロボット、AI等を駆使
- 世界に先駆けた革新的低炭素化技術の研究開発
 - ・バイオマスからの化成品等の製造等



光学センサーによる樹脂素材の選別
出典: 環境省

【人材育成、普及啓発等】

- Re-Styleキャンペーンを通じて、若年層を中心にサブカルチャー等と連携した意識醸成、行動喚起
- 多数の企業が参加した消費者キャンペーン

 Re-style website
出典: 環境省



循環型社会形成のための指標の構成

- 循環型社会の全体像を把握し、その向上を図るための物質フロー指標、数値目標を設定
- 各主体の取組の進展度合いを的確に計測・評価し、更なる取組を促していくため、中長期的な方向性の項目別に指標を定め、可能な範囲で数値目標を設定

位置づけ		指標の種類
循環型社会の全体像に関する指標	物質フロー指標	<ul style="list-style-type: none"> • 経済社会におけるものの流れ全体を把握し、その向上を図る • 物質フローの3つの断面である「入口」、「循環」、「出口」それぞれについて、資源生産性、循環利用率、最終処分量を設定
循環型社会形成に向けた取組の進展に関する指標	項目別物質フロー指標	各主体の取組の進展による物質フローの改善等の状況を捉える
	項目別取組指標	各主体の取組の進展そのものを捉える

取組の進展に関する指標の例	持続可能な社会づくりとの統合的取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 循環型社会ビジネスの市場規模 ● 家庭系・事業系食品ロス量
	多種多様な地域循環共生圏形成による地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 1人1日当たりのごみ排出量 ● 1人1日当たりの家庭系ごみ排出量
	ライフサイクル全体での徹底的な資源循環	<ul style="list-style-type: none"> ● 国民1人当たりの一次資源等価換算した天然資源等消費量 ● 廃棄物等種類別の出口側の循環利用率
	適正処理の更なる推進と環境再生	<ul style="list-style-type: none"> ● 不法投棄、不適正処理の発生件数
	万全な災害廃棄物処理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般廃棄物、産業廃棄物最終処分場の残余年数 ● 災害廃棄物処理計画の策定率
	適正な国際資源循環体制の構築と循環産業の海外展開の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 資源循環分野を含む環境協力に関する覚書締結等を行った国の数
	循環分野における基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 電子マニフェストの普及率 ● 具体的な3R行動の実施率

※下線は第四次循環計画において新たに定めた指標